２００７

漢字の知育玩具

Intellectual Training Toy for KANJI Study

AD ０９　小俣　美佳
指導教員　杉島　一男

1.研究目的

近年、小学生の漢字能力が低下していると言われている。勉強しようと漢字ドリル等を見ると身構えてしまい、理解しながら学ぶ余裕が無くなる。そこで、初めて出会う漢字を楽しく理解し、学べるものを提案したい。

2.調査と分析

●漢字についての現状調査。

漢字離れの主な原因としては、生活の中でテレビを観る時間が増えた事や、パソコンや携帯電話の普及等があげられる。自分で書かなくてもキーボードを打つだけで漢字を書き、変換することが出来る為、いざという時に適切な漢字を使う事が出来ないという。

●漢字関連の商品調査。

学校や家庭で使用するドリルは様々な種類があった。漢字の知育玩具については、ブロックやつみき、カードや壁に貼る型のものなどがあったが、種類が少ない。

●漢字の勉強法についてのインタビュー調査。

小学校入学前～小学一年生の子をもつ１０人の親に対してインタビュー調査をさせて頂いた。

「漢字を知っていても意味がわからず、いざ文章を書く時に使えない。」「家庭での勉強は学校の宿題のみという事が多い。」「漢字には興味が薄く、義務的に学んでいる。」などの意見が多かった。

以上を踏まえ、「親子で一緒に取り組め、漢字に対して関心を持つ事が出来るもの」が必要だと考えた。

3.コンセプトの立案

「五感を使って学ぶ玩具」

漢字に興味・関心を持たせるために、手で触り感触があるものを与える。感覚を鋭くすると同時に、それらと漢字を関連付けさせ、覚えやすくする。また、子供たちが「遊び」の中で五感を働かし、考えながら成長させ、楽しく学ばせる。

小学校入学前～小学一年生を対象とする。

4.デザイン展開

小学生一年生で習う80字の漢字を意味ごとに種類分けし、理解しやすく種類別に異なるデザインの玩具とした。基本的な形は、自ら考えながら手で触って遊べるという点でブロック型とした。ブロック型・磁石を使用した仕掛け・漢字とビジュアルをリンクさせ、意味を理解しやすくする、という点は統一し、ケースにまとめて収納できるようにし、持ち運び可能とした。また、理解しやすいよう工夫した点については下に挙げる。

・上下左右の漢字については、ブロックを上下左右に配置し、上下左右の意味と漢字を関連付けし、理解しやすいようにした。

・色の意味を持つ漢字については、ブロックをはめる方に色のビジュアルとひらがなを置き、色の漢字の意味が理解しやすいようにした。

・大中小の漢字については、ブロックをはめる方に大中小の図とひらがなを置く事で、大中小と漢字を関連付けし、意味を理解しやすいようにした。

・体の部分の意味を持つ漢字については、人の体のビジュアルに漢字のブロックを対応した所へはめていく形にする事で、漢字がどの体の部分の意味なのか理解しやすくした。

5.完成図

6.結論

義務的になりがちな漢字学習を、玩具で楽しく学べるという形で表現出来たと感じた。ビジュル面、構造面でもう少し改善する必要がある点と、小学一年生で習う全漢字分を制作出来なかった所は今回の反省すべき点と考える。今回学んだ事を参考にし、今後に生かしていきたい。

7.参考文献

・子供の笑顔を開く幼児教育
http://www.sehimiry.com/